



農業の活性化を目指して

佐藤イネ子さんが黄綬褒章受章

県で初めて農業経営士の認定を受け、多角的な経営展開で地域活性化に取り組む佐藤イネ子さん(薄市下)が、多年にわたる農業従事が認められ黄綬褒章を受章しました。

11月17日(金)には、濱館町長を訪問し、受章の報告をしました。町長は「受章おめでとうございます。佐藤さんの長年の取組が認められたのだと思う。これからも、活性化のためにがんばってほしい」と激励しました。佐藤さんは「こんな名誉をいただけるとは思っていませんでしたので、とても嬉しい。継続することで農業が活性化してくれれば」と意気込みを話していました。

監査の目、これからも

葛西昭文さんが町長を訪問

平成17年から町の代表監査委員を務める葛西昭文さん(向町上)がその功績を認められ、東京都で行われた町村監査功労者表彰式で表彰を受けました。

12月6日(水)には役場町長室を訪れ、濱館町長に報告しました。町長は「おめでとうございます。私たち行政をチェックするエキスパートとして、これからも頑張ってください」と激励すると、葛西さんは「今後も、勉強して町の監査をしていけるよう日々努力していきます」と意気込みを語りました。



剣士たちが技を競う

第24回新岡精弥杯争奪剣道大会

新岡精弥杯争奪剣道大会が11月19日(日)、体育センターで開催され、西北五や弘前市地区から小・中学生約200人が参加しました。

開会式では、応援にかけつけた濱館町長が「みなさんの日頃の努力の成果を出せるようがんばってください」と激励しました。その後、個人・団体の試合が行われ、会場には選手たちの掛け声と竹刀の音が響きました。



育てた大豆を味わう

武田小1・2年生が豆腐づくり

武田小学校の1・2年生29人と保護者8人が12月18日(月)、小学校の調理室で豆腐づくりを行いました。豆腐づくりには、町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」の畑の学校・食卓の学校で収穫した自分たちの大豆を使いました。

かけはしの会員らの指導のもと、ミキサーで豆を細かくくだき、鍋で煮て絞ると豆乳とおからができました。豆乳ににがりを入れるとだんだんと固まり始め、子どもたち不思議そうな顔で見つめていました。

豆腐づくりを体験した児童らは「自分たちで獲ったから美味しい。おうちでも食べたい」と笑顔で話していました





リサイクルを忘れずに!

薄市小学校に感謝状

アルミ缶リサイクル協会が行っているアルミ缶小・中学校回収協力者表彰で、薄市小学校が優秀校に選出されました。アルミニウム缶の回収活動が特に優れているとして選ばれ、11月13日(月)には、薄市小学校で感謝状の授与が行われました。活動を行った今本皓也くん(今泉下)と野上孝太郎くん(下高根)が代表して、感謝状と記念品を受け取りました。

また、アルミニウムの原材料である、ボーキサイトやアルミナの説明を受けたり、1kgのアルミニウムの延べ棒を持ち上げたりしていました。2人は「家で出たアルミ缶を集めました。リサイクルした方が電気代がかからないというところにおどろいた。これからもリサイクル活動を続けていきたい」と話していました。

町のスポーツ発展目指し

加藤豊さんが町長を訪問

長年にわたり町のスポーツ推進委員として地域のスポーツ振興に尽力する加藤豊さん(五林)が、その功績を認められ、茨城県で開催された全国スポーツ推進委員功労者表彰(文部科学大臣表彰)で表彰を受けました。12月1日(金)には役場町長室を訪れ、濱館町長に報告しました。町長は「町のスポーツ推進、いつもありがとうございます。これからも」と激励すると、加藤さんは「子どもたちが楽しんで体を動かして続けられるように」と意気込みを語りました。



みんなで楽しむ簡単スポーツ

2017キッズスポーツフェスティバル

ユー・スポーツに親しんでもらおうと、12月31日(日)町体育センターで小学生を対象としたキッズスポーツフェスティバルが開催されました。この日は、中里・武田・薄市の小学生ら約40人が体育館に集まり、ストラックアウトやスポーツ吹き矢、柔らかいフリスビーを使い、ドッジボールのルールで遊ぶ「ドッジビー」などを楽しみました。豪華賞品をめぐってトーナメント形式で行われたニチレクボールでは、見学していた父兄からも応援の声が上がり、盛り上がりを見せていました。参加した児童らは「フリスビーが難しくいろいろな方向に飛んでいった。ニチレクボールが楽しかった。負けたけどもう一回やりたい」と話していました。

中泊町でもコシヒカリ

ばろかだる会が訪問

若手農業者で結成されたばろかだる会(会長・秋元正和)が11月22日(水)、濱館町長を訪れ「中泊町産コシヒカリ」の出来を報告しました。通常、福島県や新潟県より南で作付けされるコシヒカリ。当町でも収穫しようと取り組み、今年で3年目となりました。

濱館町長は「当町でもコシヒカリができるとは驚いた。若手農業者のみなさんがいろいろな取り組みに挑戦することで、町の農業が発展することを期待しています」と激励しました。





もしものために

中央公民館で防災宿泊体験

小学4年生以上を対象とした防災宿泊体験を11月11日(土)、12日(日)に中央公民館で実施しました。日本赤十字社青森県支部の学習では「大切な支援物資の取り扱い方」「災害に対する初動」などを遊びを取り入れながら学びました。総務課消防防災係の学習では、津波のことを学び、避難場所の確認を行いました。その後は、ハイゼックスを使ったご飯の炊き方、命を守るためのロープの結び方を真剣に学んでいました。避難所ではプライバシーの確保が難しいことを想定し段ボールを用いてグループで協力し合いながら段ボールハウスを作成し、寝泊りをしました。参加した児童は「災害が起きると大変なので、練習した方がいいと思いました」「ロープワークで簡単な結び方を学べたので良かった」と遊びを通して「防災」をしっかり学びました。

夢のあるアイデアをかだる

中里・小泊地域でかだるべし開催

中泊町のこれからの考えようと、町社会福祉協議会が「第4回みんなで『かだるべし』中泊」を開催しました。11月14日(火)に老人福祉センターで、21日(火)に高齢者生活福祉センターで合わせて69人が参加し、中里地域には町と提携している明の星短期大学から3人の生徒が参加しました。

参加者らは、6人程度のグループをつくり「居場所作りについて」「高齢者などの見守りについて」のどちらかのテーマを話し合い、それらをまとめて発表しました。発表の中には、犬や猫など動物とのふれあいをきっかけに多世代との交流を図る案や、社協カフェやお寺などを使った気軽に集まることのできる居場所づくりなど様々なアイデアがありました。参加者らは「多様な意見を聞くことができて勉強になった。今日出たアイデアが1つでも実行できたらおもしろい」と話していました。



打ちたてはやっぱりおいしい

新そばづくりに挑戦!

中央公民館では、11月26日(日)にそばづくり教室を開催しました。最初に講師のデモンストレーションと説明を聞きました。その後、参加者はもう一度手順を聞きながら40分ほどかけて丹精こめてそばを打ちました。

打ったそばは、その場でゆでて食し、参加者は「麺は太いけどうちたてのそばはおいしい。ぜひもう一度参加したい」「自宅でもそばを打ってみたい」と感想を述べては舌鼓をうっていました。



地域のよき相談相手として

成田克恵さんに委嘱状

成田克恵さん(派立下)が地域の福祉関係の悩みなどの相談を受ける民生・児童委員に決まりました。12月13日(水)には、役場町長室で濱館町長から委嘱状が交付されました。町長から「これからよろしくお願ひします。大変だと思いますががんばってください」と激励の言葉が贈られると、成田さんは「地域住民のために頑張りたい」と意気込みを話しました。



子どもたちに思い出を

鈴木定雄さんが町長を訪問

日本新聞協会が、新聞販売店の優れた地域活動に贈る「地域貢献賞」に当町の東奥日報中里・鈴木新聞店の鈴木定雄さんが選ばれました。鈴木さんは、平成15年から武田小学校の児童を対象に「水ロケット」作りを指導しています。

12月18日(月)には役場町長室を訪れ、濱館町長に報告しました。町長は「おめでとうございます。これからも、子どもたちの夢を乗せて飛ばしてください」とお祝いの言葉を贈りました。鈴木さんは「学校から要請がある限り、子どもたちの思い出づくりに手伝いたい」と意気込みを語りました。

除排雪の安全を祈願

町建設業協会が安全祈願

町建設業協会(会長・平山久宗)が、12月5日(火)大沢内克雪センターで、除排雪作業の安全祈願を行いました。

祈願には濱館町長や同協会関係者など約20人が参加し、除雪や排雪作業の安全を祈りました。祈願終了後、町長は「いつ地吹雪による交通障害が生じるか分かりません。事故のないよう除雪し、道路利用の安全確保をよろしくお願いします」と話し、それを受けて除雪に携わる参加者たちは「気を引き締めて、この冬の除排雪作業をすすめていきたい」と話していました。



礼儀正しく、勇ましく

米塚義定杯争奪柔道大会

中里柔道会主催の第23回米塚義定杯争奪柔道大会が、11月26日(日)体育センターで開催され、町内外から集まった選手約270人が出場しました。同大会には未就学児から中学生まで幅広い年代が参加し、会場には気合いのこもった声と受け身の音が響いていました。選手たちは、日頃の練習の成果を発揮しようと、保護者らの応援を背に、真剣な表情で試合に臨んでいました。中里誠心塾、中里中学校から出場した選手の試合結果は次のとおりです。

■団体…小学校団体2位 中里誠心塾/中学校男子団体3位 中里中学校 ■個人(幼年、小学校)…男子1年3位 加賀田悠仁、長利元大/男子2年2位 佐藤秀磨/男子4年3位 佐井川友也/女子4年3位 葛西萌恵
■個人(中学校)…男子2年2位 奈良竜登 ■米塚賞…奈良竜登

過去を振り返って

「自分史 宝森」第3版完成!

弘前大学地域連携事業を活用した高齢者を対象とした自分史づくりが、6月から12月まで月1回、中央公民館で実施されました。今年度も4人の参加者があり、弘前大学の松本大准教授が講師となり、自分のことや地域のことを話したり聞いたりし、最後に文章にして自分史づくりを行いました。

最終回には文集形式の自分史「宝森」が完成し、松本氏から直接、手渡されました。参加者は「過去を振り返る良い機会だった」「他の参加者の過去のことを知ることができた」「とても良い講座だった。続けてもらいたい」「自分の宝物にしたい」と感想を述べ、手渡された自分史をみて感慨深そうにしていました。

